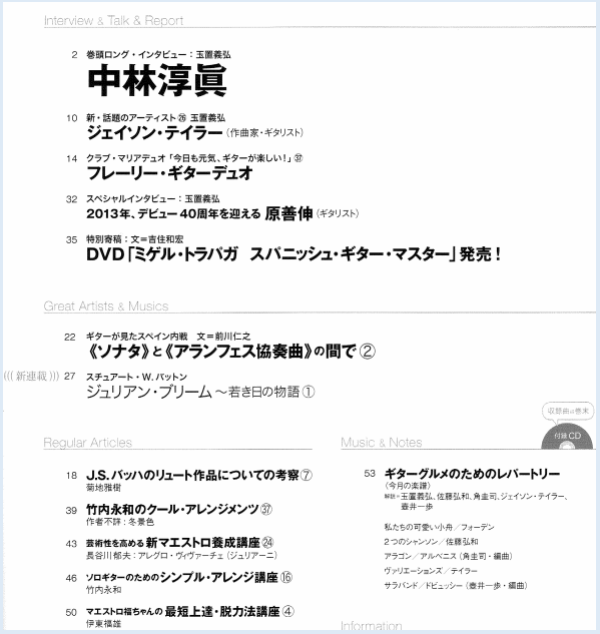
Guitar dream　NO.37(2012. 11)の紹介　by yakateru

表紙



メイン目次

【巻頭ロング・インタヴュー　抜粋・概要】　中林淳真

今回は、中林淳真氏。以前、息子さんのインタビュー記事がありましたが、そこでは自分を「ギター弾きではない」ということで、他人の曲を弾かないという話がありました。このインタビュー時点で 85 歳です。

- 音楽監督になるには、「まず、喜劇の音楽ができなくてはだめだと」早川師匠から言われ、がくっときた思い出があります。映画音楽としては、「太陽の季節」でプレーヤーとして担当しました。雨のシーンでは、リンゼイの「雨だれ」を使いました。日本映画音楽で、全編ギター1 本でやったのは初めてでした。
- コンクールで優勝してスペインへ行きましたが、アルハンブラ宮殿の横にある丘の洞窟でロマと一緒に生活してフラメンコにどっぷりつかっていました。
- 全国を車で巡る「セレナーデコンサート」は今年で 32 年目になります。車も 8 台目です。
- アルゼンチンには、100 歳のギタリストがいます。メキシコにも 88 歳のギタリストがいます。ただ、さすがにちょっとぼけてきて、ギターを持たずにステージへ上がろうとしたり。でもいざ弾くと素晴らしい。ボケても演奏はボケないものかも。私も、あと 10 年は大丈夫かと思っています。

【（新）話題のアーティスト紹介　ジェイソン・ティラー】

アメリカ生まれの作曲家兼ギタリストです。奥様が日本人で、この時で、名古屋に住み始めて 11 年になるそうです。村上春樹の小説をオペラ化したいと考えられているそうです。

【クラブ・マリアデュオのインタビュー：フレーリー・ギター・デュオ】

ハワイのギターデュオのご夫婦です。ただ、生まれはお二人とも韓国です。ハワイでは、有名ギタリストを呼んでもコンサートでも人の入りは悪く、クラシックギターで生計を立てるのは大変そうです。

【ミゲル・トラパガ　スパニッシュ・ギター・マスターDVD 発売　特別寄稿】

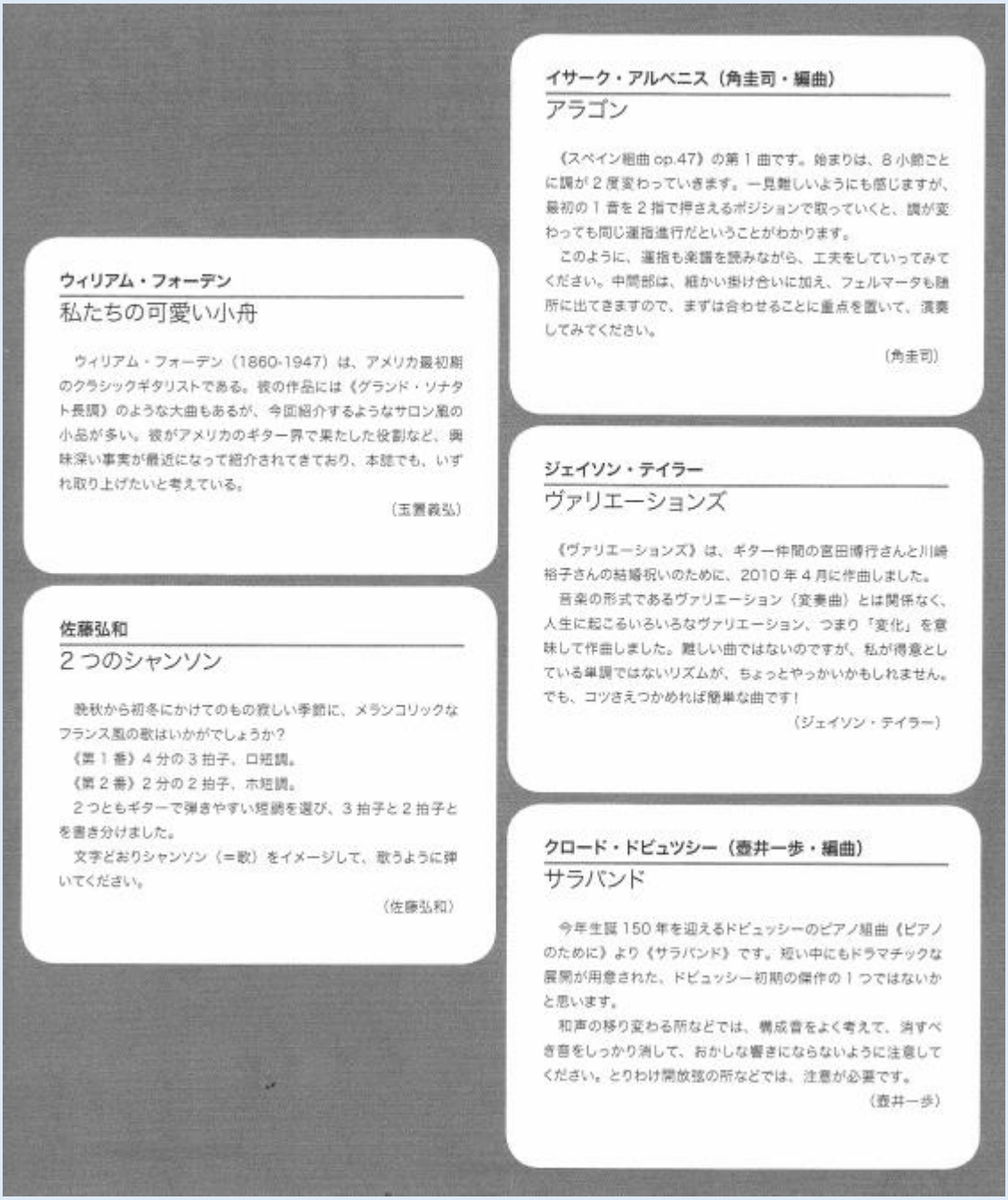
ギターを立てて構えるポーズの創始者？トラパガの DVD 発売にちなんでのインタビュー記事です。

- インタビューアー：ダダリオ弦の芯がありつつもあでやかなナイロンの音、重厚で粘りのあるオーガスチンの低音弦のイメージを少しでも再現したいため、マスタリングは再度日本で行いました。
- 「演奏」と「講座」を同時収録しました。言葉で説明するより演奏した方がいいと思いました。

【その他の注目すべき記事】

- 「新連載　ジュリアン・ブリーム　若き日の物語：S.W バットン」魅力的な新連載が始まりましたが、残りあと 2 号です。これについてもまた別の機会に概要を紹介する予定です。
- 「デビュー40 周年を迎える　原　善伸　スペシャルインタビュー」が掲載されています
- 「新マエストロ養成講座：長谷川郁夫」：第 24 回は、ジュリアーニの「アレグロ・ヴィバーチェ OP147-10」です。
- 「21 世紀のギター教本＃２：佐藤弘和」：今回は、これまで 1～36 のレッスンの総括です。
- 「クール・アレンジメント：竹内永和」：今回は、日本の歌「冬景色」です。
- 「ソロギターのためのシンプル・アレンジ講座：竹内永和」：今回は、これまでのまとめです。サンプル曲は、「二人でお茶を」が掲載されています
- 冒頭インタビューの伊藤福雄氏による「最短上達・脱力法講座」は、習慣づけることの話です。

また、Guitar dream には、楽譜と模範演奏 CD がついている。今回は、下の楽曲が掲載されている。



ウィリアム・フォーデン

私たちの可愛い小舟

ウィリアム・フォーデン（1860-1947）は、アメリカ最初期のクラシックギタリストである。彼の作品には《グランド・ソナタ ト長調》のような大曲もあるが、今回紹介するようなサロン風の小品が多い。彼がアメリカのギター界で果たした役割など、興味深い事実が最近になって紹介されてきており、本誌でも、いずれ取り上げたいと考えている。

（玉置義弘）

佐藤弘和

２つのシャンソン

晩秋から初冬にかけてのもの寂しい季節に、メランコリックなフランス風の歌はいかがでしょうか？

《第１番》４分の３拍子、ロ短調。

《第２番》２分の２拍子、ホ短調。

２つともギターで弾きやすい短調を選び、３拍子と２拍子とを書き分けました。

文字どおりシャンソン（＝歌）をイメージして、歌うように弾いてください。

（佐藤弘和）

イサーク・アルベニス（角圭司・編曲）

アラゴン

《スペイン組曲 op.47》の第１曲です。始まりは、８小節ごとに調が２度変わっていきます。一見難しいようにも感じますが、最初の１音を２指で押さえるポジションで取っていくと、調が変わっても同じ運指進行だということがわかります。

このように、運指も楽譜を読みながら、工夫をしていってみてください。中間部は、細かい掛け合いに加え、フェルマータも随所に出てきますので、まずは合わせることに重点を置いて、演奏してみてください。

（角圭司）

ジェイソン・テイラー

ヴァリエーションズ

《ヴァリエーションズ》は、ギター仲間の宮田博行さんと川崎裕子さんの結婚祝いのために、2010 年４月に作曲しました。

音楽の形式であるヴァリエーション（変奏曲）とは関係なく、人生に起こるいろいろなヴァリエーション、つまり「変化」を意味して作曲しました。難しい曲ではないのですが、私が得意としている単調ではないリズムが、ちょっとやっかいかもしれません。でも、コツさえつかめれば簡単な曲です！

（ジェイソン・テイラー）

クロード・ドビュッシー（壺井一歩・編曲）

サラバンド

今年生誕 150 年を迎えるドビュッシーのピアノ組曲《ピアノのために》より《サラバンド》です。短い中にもドラマチックな展開が用意された、ドビュッシー初期の傑作の１つではないかと思います。

和声の移り変わる所などでは、構成音をよく考えて、消すべき音をしっかり消して、おかしな響きにならないように注意してください。とりわけ開放弦の所などでは、注意が必要です。

（壺井一歩）